

高橋 八重典 議員 政新会



問 筏川右岸堤防の早期整備完了を

答 環境改善、景観創出のため整備

筏川右岸堤防整備事業の現状から以下を問う。

問 何のために計画されたのか。

答 〔農政課長〕 護岸保護のため、矢板を設置。

問 事業内容は。

答 総工費約6億4800万円、延長約3.5km。

問 海南橋から鍋田大橋までの計画は。

答 約1.9kmを順次整備。

問 いつ頃をめどにしているか。

答 本年度、海南橋付近150m実施予定。計算上、完了まで約10年。

問 未整備区間での害虫・害獣被害対策は。

答 雑草繁茂の軽減が図られ、一定程度の効果がある。

問 県所管による鍋田大橋以降下流の整備は。

答 現在、排水機場の耐震対策を行っている。今後、自然環境や治水に関連する整備を予定。

問 事業完成後の有効活用は。

答 管理用道路として散歩等に利用を。

問 筏川右岸整備事業の総括を。

答 〔市長〕 本来は、排水路護岸の脆弱化防止。将来的に維持管理費軽減や、環境改善のため順次整備。



▲筏川右岸未整備区間

問 市有バス使用条件の緩和を

答 団体会員増加のために考えたい

市有バスの現状と管理規程から以下を問う。

問 年間稼働率は。

答 〔財政課長〕 令和元年度、40人乗り43%、35人乗り30%。

問 年間で稼働率が高い月は。

答 40人乗り10月、11月を含めた6か月。35人乗り7月、11月を含めた3か月。

問 片道70km未満の根拠は。

答 平成29年4月から、使用時間の午前8時30分から午後5時までを考慮。

問 稼働率の低い月に限定し、使用者の規制を緩和することで稼働率・費用対効果が向上するのでは。

答 〔総務部長〕 団体や活動範囲を広げると競合し、日程調整が難しい。

問 既存団体以外の市内福祉会・子供の会である前提のグループ、最低人数、使用料を設定し緩和を希望する。

答 市有バスは自家用車であり、有償運送はできない。

問 使用時間の見直しをしては。

答 使用者が超過分を負担すれば、有償運送に該当し見直しはできない。

問 昨今の高速道路事情から距離の見直しは。

答 福寿会の意見を聞き判断。

問 市有バス管理規程の緩和を。

答 会員増加につながれば、費用対効果もよくなるので考えたい。



▶市有バス